

## 最優秀賞



### 『言葉のちから』

島根県立平田高等学校 2年 手銭 遥

ちょうど今から二年前、祖母が病気で入院した。不安で動揺する私に「大丈夫、おばあちゃんきっとよくなるから安心してね」と看護師さんが言ってくれた。私はこの一言でとても気持ちが落ちついた。それから少しの時間でも祖母に会いたい、よくなってほしいという一心でお見舞に通い続けた。

しかし、その思いとは裏腹に日に日に祖母の身体は弱っていく一方だった。ご飯を食べることや会話することが難しくなり、すっかり痩せて姿が変わっていく祖母を見るのが怖かった。祖母の手を握っても握り返してくれる力がだんだん弱くなり、私は祖母がもうすぐ死んでしまうという悲しい気持ちでいっぱいになり泣いてしまった。そんな時に看護師さんは「耳は最後まで聞こえるの。だから沢山話しかけてあげて」と声をかけてくださった。その言葉で私は祖母の手を握り話しかけることができた。その翌日容体が急変して祖母は息を引き取った。祖母の死が私にとって初めての身内の死であった。日々の看護師さんの言葉が、私たち家族にどれだけ支えになったか、なかったらきちんとお別れできなかつたかもしれない。おかげで最後に祖母に思いを伝えることができたように感じた。看護師は患者の死を家族が看取ることができるよう支える重要な役割もしてくれる存在だと思った。祖母を担当していただいた看護師さんは、いつも丁寧な言葉使いや笑顔で接してくださった。忙しくても私を見かけると「何かあったら言ってね」と声をかけてくれた。何よりどんな時でも気にかけてくれる看護師さんがいるという安心感でどれだけ心が軽くなつただろう。看護師さんがかけてくださった多くの言葉が今でも忘れられない。

看護師になることは私の幼い頃からの夢である。私もあの時出会った看護師さんのような患者さんや家族の心に寄りそった身体も心もケアできる温かい看護師を目指していきたい。

## 優秀賞



### 『優しさに感謝』

島根県立島根中央高等学校 1年 岩田 桃李

「一度島根に行ってみたいな。」この夢を叶えることなく祖母は私が高校1年生の春にがんで亡くなりました。毎週抗がん剤を打ちに県外の病院に通っていましたが、亡くなる半月ほど前からは入院をして治療をしていました。コロナ禍で面会が制限されている上に、私は島根で寮生活をしていたため、なかなか祖母に会うことができませんでした。そんな祖母とのやりとりはLINEや手紙でした。状態が悪くなく、文字も読めなくなってきた祖母に対して、看護師さんは私の送った文章を祖母に読んであげていたこと、それを聞いて祖母が嬉しそうにしていたことを後から母に聞きました。元気な頃から祖母は毎日日記をつけていました。亡くなる直前の祖母の字は最後の力を振り絞って書いたような力のない字でした。そこには私への応援メッセージも綴られていました。看護師さんは治療の手伝いだけでなく、患者さん一人一人に寄り添って心のケアまでしてくれていることに感動しました。私も将来、人の心に寄り添えるような職業に就きたいです。祖母に読み聞かせをしてくれた看護師さんをはじめ、祖母に関わってくださった方々に直接お礼は言うことはできなかったけど感謝の気持ちでいっぱいです。小さい頃からお世話になりたくさんの優しさと愛情をくれた祖母にこう伝えたいです。「ありがとう」と。

## 優秀賞



### 『つながり』

島根県立松江農林高等学校 1年 代 悠乃

「大きくなったら看護師さんになりたい」これが私の小さい頃からの夢でした。父の仕事の関係や、祖父母の入院、検査の付き添いなどで病院には何度も小さい頃から足を運んだことがあり、看護師の方を、目を輝かせながらじっと見ていたのを今でも覚えています。

体が不自由な人、寝たきりの状態の人、病院には、色々な病を抱えた人がいる中、どんな患者さんに対しても、明るく笑顔で、そっと話しかけておられる姿に、私は一番心を打たれました。決して言葉でしゃべるだけが会話ではないということを教えてもらえたような気がしました。私の祖母は脳梗塞で、普通に会話をすることはできません。ですが、沢山の出来事を目を見て話しかけると、ニコっと笑ってくれたり、時には一緒に泣いてくれます。言葉を使って話すだけが会話ではない。目を見てお互いの気持ちが一緒に温まったり寄り添いあったりすることも心と心の会話となり、つながるということなんだと私はそのとき実感しました。私の中での理想の看護師像は、信頼され、患者さん、そして患者さんのご家族の看護もできる看護師、だれからも慕われ、相手の言葉だけではなく、気持ちにそっと心や耳を傾けれるような看護師です。だれかに何かをしてあげているという上から目線な考え方や態度は医療の現場に携わる人として絶対にしてはいけないことです。だから私は、高校生の今から謙虚な気持ち、どのような状況下になっても責任を持ち、素直な気持ちで居続けたいと思っています。

当たり前のことが、今、当たり前に行えているということ、それは誰かの支えがあるからだと思っています。誰かの力を得ることで可能性は広がります。その可能性を広げたり信じたりできるのも看護師にもできると思います。誰かの気持ちに寄り添って、誰かの背中を押して、一緒に辛さを分かち合える支えとなる存在になりたいです。それがきっと沢山の人の笑顔に繋がる一歩だと思うから。